

令和7年度年度末自己評価書

令和8年1月 愛南町立城辺小学校

【評価基準】					: 肯定率が下がったもの : 肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)					
重点目標		目標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	6年度末						
1	社会 総がかりで取り組む教育	1 地域の人的・物的環境を活用し、家庭や地域と連携した教育を進めている。	教職員	100	A	A	95	A	A	◆全ての評価者から高い評価を得ている。保護者の肯定率が前年度比で5ポイント下落しているが、高評価を維持しており、概ね学校が推進してきた連携強化の取組みが保護者に確実に届き、高く評価されていると思われる。教職員および地域関係者の評価は、昨年度に引き続き非常に高い水準で安定しており、連携体制が取れていることの裏付けだと言える。 ◇地域の人的・物的環境を活かした学習を継続し、学校運営協議会との連携をさらに深める。そして、連携活動の様子を写真や動画などで積極的に発信し保護者の学校の応援団としての意識をさらに高める。		
			児童									
			保護者	91	A		96	A				
			地域関係者	94	A		94	A				
学校運営協議会委員の所見			○ よくできている。今年度は、開校150周年行事があったことで、地域・家庭はもとより町民とのつながりも感じられた。 ○ 地域・家庭など、いろいろな方の協力で教育活動が成り立っており、学校と連携が取れており、充実したよりよい活動ができている。 ○ 学校・地域・家庭が目標を共有し、開かれた学校づくりができている。									
学校の対応			○ 今後も共通理解を図り、目標を共有することにより、充実した教育活動の推進に努める。 ○ 開校150周年記念行事で深まった関わりを、来年度の教育活動に生かせるように努める。									
2	一人ひとりを 見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進	2 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆いじめ防止への取組は、全ての評価者から極めて高く評価されており、学校の安全・安心な環境づくりが実を結んでいることが明確になっている。しかし、児童、保護者の肯定率下がっているのは気になる点である。学校が講じているいじめ防止対策について、児童一人ひとりの安心感の醸成に寄与しているのかどうか、そしてその姿勢が保護者に伝わっているのかどうか、見直す必要がある。教職員と地域関係者からの100%という評価は、この取組が学校内外で一貫して支持されていると考えられる。 ◇肯定率が高い現状に安心せず、定期的なアンケートや教育相談に加え、学習用端末を活用した日常的なチェック(ジブンミカタプログラムなど)を継続し、小さな変化を見逃さない体制づくりに努める。		
			児童	92	A		97	A				
			保護者	95	A		97	A				
			地域関係者	100	A		100	A				
		3 一人ひとりを重視した指導に努めている。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆肯定率は少し下がってはいるが、教職員・保護者双方から非常に肯定的である。保護者の評価も高水準で安定しており、学校の指導方針が家庭にも正しく伝わり、肯定的に受け入れられていると考えられる。 ◇一人ひとりを重視した指導をさらに進めるため、教職員間での情報交換や事例研究を定期化し、指導の引き出しを増やす。		
			児童									
			保護者	94	A		95	A				
			地域関係者									
		4 心を込めた挨拶や優しい言動ができ、規範意識のある児童の育成に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆児童の自己評価の肯定率が下がっている。これは、学校内で継続的に指導を行っているものの、挨拶をよくなるための活動がややマンネリ化しているのではないかとと思われる。しかし、児童の自己評価とは対照的に、保護者の評価は上昇している。これは、児童の挨拶をもっとよいものにしたいという気持ちの表れであるとも考えられる。 ◇児童が自分の挨拶を振り返る機会を設け、「相手の目を見て」「心を込めて」といった「質の向上」を目指す指導を行う。若竹レターの活動を継続するとともに、内容や紹介方法を工夫することにより、優しい言動への意欲付けを図る。		
			児童	91	A		95	A				
			保護者	93	A		90	A				
			地域関係者	91	A		91	A				
		4の内訳										
		気持ちのよい挨拶ができている。	教職員	100	A		100	A				
			児童	88	B		94	A				
			保護者	94	A		87	B				
			地域関係者	87	B		89	B				
		思いやりのある言動ができている。	教職員	100	A		100	A				
			児童	88	B		96	A				
			保護者	94	A		93	A				
			地域関係者	95	A		93	A				
		学校運営協議会委員の所見			○ 教職員が児童と向き合う時間を確保していることが、児童が困った時に相談できる人がいるという思いにつながっているのではないかと。児童一人ひとりを見つめ、大切にしていることが感じられる。 ○ 児童が「自分は大切にされている」と実感できるようにし、学校が安心して過ごせる場所であってほしい。 ○ 気持ちのよい挨拶が、地域にも広がるとよい。							
		学校の対応			○ 情報交換を密にして共通理解を図り、生徒指導上の問題に組織的に取り組むことができた。今後も組織のよさを生かして積極的な対応を進める。 ○ 児童理解に努め、一人ひとりを大切にするとともに集団の力を高め、いじめや諸問題の未然防止や早期発見に努める。 ○ 相手を意識したり、自分の行動を振り返ったりする機会をつくり、挨拶の質の向上を目指す。							

【評価基準】										
A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満									考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目 標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	6年度末				
3	5 授業力の向上 (主体的・対話 的で深い学び、 個に応じた指導、ICT活用) を図る。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆この高い評価は、日々の地道な取組の成果だと考えられる。全教職員が校内研修などを通して、「深い学び」の実現や「個に応じた指導」についての研究を深め、日々の授業で実践を続けている。また、学習用端末などのICTを授業で効果的に活用することにより、子どもたちの学びへの意欲や理解をさらに深めることに繋がっている。そして、こうした授業での取組を、授業参観日などを通じて保護者や地域の方に見ていただけたことが、評価に繋がったと考えられる。 ◇教職員による「深い学び」「個に応じた指導」「ICTの効果的な活用」に関する研究を継続する。また、普段の授業を大切に、授業中の個別指導・支援を教職員の協力体制のものに進め、効果のあった取組を更に充実させる。そして、これらの取組をHPなどで積極的に発信する。	
		児 童	96	A		95	A			
		保護者	94	A		90	A			
		地域関係者	100	A		100	A			
	6 家庭学習の習慣化に努める。	教職員	100	A	B	100	A	C		
		児 童	81	B		70	C			
		保護者	62	C		65	C			
		地域関係者								
	7 家庭読書の習慣化に努める。	教職員	100	A	C	100	A	C		
		児 童	76	C		61	C			
		保護者	69	C		61	C			
		地域関係者								
	8 自己の体力向上・健康保持増進に取り組む態度を育成し、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発指導に努める。	教職員	100	A	B	100	A	B		
		児 童	87	B		89	B			
		保護者	73	C		88	B			
		地域関係者								
学校運営協議会委員の 所見		○ 児童が家庭学習したことを保護者に見せるなど、成果を報告できるようにすれば、保護者が家庭学習の確認をし、児童の頑張り気付くことができるのではない。 ○ アンケートの項目を工夫してはどうか(決まった時間家庭学習ができたかではなく、宿題をきちんと提出できたか、など)。 ○ 目標8については、アンケート項目を「早寝」「早起き」「朝ごはん」に分けると、より要因が明らかになるのではない。 ○ 宿題の出し方を工夫し、個に応じた質や量になるようにする必要がある。 ○ 親子読書の効果が見られる。今後も継続してほしい。 ○ 粘り強く啓発活動を続けてもらいたい。								
		○ 家庭学習や家庭読書、生活習慣などについて、時期や方法を工夫しながら啓発を続ける。 ○ 家庭と連携し、児童が家庭学習を保護者に見せる場をつくる。 ○ アンケート項目を工夫し、より細かな対応ができるようにする。 ○ 親子読書や、読書に親しむ活動を継続する。 ○ 啓発活動を工夫し継続する。								
学校の対応		○ 家庭学習や家庭読書、生活習慣などについて、時期や方法を工夫しながら啓発を続ける。 ○ 家庭と連携し、児童が家庭学習を保護者に見せる場をつくる。 ○ アンケート項目を工夫し、より細かな対応ができるようにする。 ○ 親子読書や、読書に親しむ活動を継続する。 ○ 啓発活動を工夫し継続する。								

【評価基準】				: 肯定率が下がったもの : 肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)				
A: 目標を達成 B: 8割以上達成 C: 6割以上達成 D: 6割未満										
重点目標		目 標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	6年度末			
4	地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備	9 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力を努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆地域連携に関する目標は、学校、保護者、地域ともに高水準の肯定率を維持している。連携・協力体制が十分に構築できていると考えられる。 ◇今後も、学校運営協議会やPTA、関係諸機関を活用し、学校からの情報発信、地域や保護者の声に耳を傾けた情報収集と改善策の提案などを行う。そして、現在の良好な協力体制を継続・発展させる。
			児 童							
			保護者	96	A		98	A		
			地域関係者	100	A		100	A		
	10 防災教育を日常的に、主体的に防災学習に取り組む児童の育成に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆児童、保護者、地域で評価に少し下落が見られるが、概ね高評価を得ている。児童は高学年ほど防災への意識が高くなっており、様々な想定での避難訓練や避難所運営訓練などの新たな試みなどによる防災教育の成果が表れていると思われる。 ◇今後も防災教育の計画的な実施と充実を図り、防災スキルの向上・定着を図る。また、児童の思いや視点を生かした避難訓練や地域との交流、安全点検などを実施し、児童が主体的に防災学習に取り組めるよう工夫する。	
		児 童	95	A		100	A			
		保護者	97	A		100	A			
		地域関係者	96	A		100	A			
学校運営協議会委員の所見			○ 情報発信や地域・保護者からの声への対応がきちんとしてきていると思う。各種たよりやHPなどからも、児童の学びや活動の様子がよく分かる。 ○ 防災教育を充実させ、学校・保護者・地域が協働する体験ができた。これがスキル向上と防災意識の向上につながるかと考える。地域とのつながりを生かし、今後も防災学習に積極的に取り組んでほしい。 ○ 可能な限り手伝えることはしたいと思うので、いつでも声を掛けてもらいたい。							
学校の対応			○ 積極的な情報発信と地域・保護者からの声への対応を心掛ける。 ○ 地域との防災学習や避難訓練、中学校と連携した避難所運営訓練など、方法や想定を工夫することにより、防災への意識を高め、スキル向上を目指す。 ○ 地域や関係諸機関などの人材を生かし、更なる防災学習の充実を図る。							

【評価基準】							考察(◆)と改善方策(◇)					
A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満					:肯定率が下がったもの :肯定率が上がったもの							
重点目標		目 標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	6年度末					
7	業務改善	14 校務支援システムの活用による、業務改善を図っている。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆100%の肯定率を維持しているのは、校務支援システムの積極的な活用が現場の教職員に明確な成果として実感されていることを示している。そして、教職員の負担軽減とモチベーション向上に直結していると考えられる。 ◇今後も校務支援システムを積極的に活用するとともに、情報共有を図り、誰もがよりよい活用ができるようにする。		
			児 童									
			保護者									
			地域関係者									
		15 働きがいと働きやすさを重視し、業務改善を図っている。	教職員	100	A	A	100	A	A		◆100%の肯定率を維持している。業務改善を図ることで、負担が減ったり効率がよくなったりすることで、教職員のやりがいを高めることにつながっていると思われる。 ◇今後も話しやすい職場の雰囲気を大切にし、職員室での何気ない会話や、週案に記入したことなどから教職員の声を吸い上げ、それを業務改善に生かせるよう努める。	
			児 童									
			保護者									
			地域関係者									
学校運営協議会委員の 所見		○ 教職員の心のゆとりが児童への質の高い指導に直結すると思うので、児童に向き合う時間を確保できるようにしてもらいたい。 ○ 社会の変化に合わせ、既存の枠組みにとられない柔軟な発想で、業務改善に努めてもらいたい。 ○ 情報のデジタル化を今後も進めていく必要がある。										
学校の対応		○ 風通しのよい職場環境を生かし、つぶやいたことが実現できるようにし、業務改善への努力を続ける。										